

国語

一

出典 村上陽一郎『エリートと教養』（中央公論新社 2022年）

いわゆる「コロナ禍」後の日本を直視し、エリートの条件や教養の本質について改めて考察した本です。「人間」というものについて説き起こしながら「教養」の概念に迫っていく本文は論旨が明確であり、わかりやすく書かれていますから、容易に文意を掴めるでしょう。

問1【漢字の書き取りと読みの問題】（解答番号は **1** ～ **6**）

正答は次の通りです。

a 方途 **b** 啓示 **c** 一筋縄 **d** 眼目 **e** せいおん **f** 派生

全問正答率は1%でした。**e**「静穏」の読みは比較的できていましたが、**a**はできていませんでした。**c**「一筋縄」を「一節縄」と書く誤答や**d**「眼目」を「顔目」と書くような誤答が散見されました。

問2【空欄補充・前後の文脈から適当なものを選ぶ問題】（解答番号は **7** ・ **8**）

空欄 **I** については直後の「言い換えれば宗教に依存しない社会」がヒントとなり、「生活から宗教的な支配力・影響力が薄れていく」ということを意味する正答⑨を導けるでしょう。

空欄 **II** は直後の「欲望の発揮を慎む」から「慎み」や「抑制」と正反対の意味を持つ言葉を選べばよいと気付けば正答⑥を導けるでしょう。傍線部 **a** の直前にある「放恣な欲望の発散」もヒントになるでしょう。著者は人間的な欲望の発揮を抑制すべきだとは論じていませんので、全受験生の55%が選んだ①は誤答となります。正答率はそれぞれ45%、14%でした。

問3【言葉の意味に関する知識を問う問題】（解答番号は **9**）

「過剰」の「剰」という漢字は常用漢字表に無い読み方ですが、訓読みで「あまつさ（え）」と読みます。頻繁に使われる言葉ではないものの、日常的に全く使わない言葉でもありません。正答は⑦です。正答率は76%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **10**）

傍線部 **B** の8行後にある「倫理や道德の基盤を、宗教に求めず」がヒントです。正答は④で、正答率は45%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **11**）

傍線部 **C** の3行後にある「『教養がある』ことの意味の一つは、何事にも『慎みがある』ということ」がヒントです。正答は③で、正答率は69%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **12**）

傍線部 **D** からやや離れますが、本文2ページの後から10行目で「『慎み』も、ある社会で生きていく際に求められる作法、行動習慣に適っていることと解釈することができます」と述べられていることに気付けば、正答が②であるとわかるでしょう。正答率は53%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **13**）

傍線部 **E** の直前で説明されていることをしっかりと押さえる必要があり、それができれば正答

は⑤であるとうかるでしう。正答率は91%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は14）

傍線部Fの直前の3行に注意しましょう。これをヒントとすれば、正答が⑤であるとうかります。正答率は88%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は15）

傍線部Gの直後から著者は「条件」について詳しく説明しており、更に本文4ページの5行目以降でも同じ主旨の説明をしています。このことに気付けば正答が④であるとうかるでしう。正答率は63%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は16）

傍線部Hの直後から著者は「他者とのコミュニケーション」について説明を展開していきます。本文の最後の1文を掴めれば、正答が①であるとうかるでしう。正答率は65%でした。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は17）

傍線部Iの直後にある「言い換えれば、時代と社会とによって、大幅に揺れ動く」がヒントです。正答は②で、正答率は76%でした。

問12【内容を理解して小見出しの組み合わせを選択する問題】（解答番号は18）

空欄 については本文をよく読めば「慎みがある」ということについての説明が中心的に展開されていることに気づくでしう。空欄 についても本文の最後に「どんな他者とも、意思の疎通を…行うことができる状態」と明記されており、ここでの著者の主張が容易に掴めます。正答は⑨で、正答率は47%でした。

問13【内容合致問題】（解答番号は19）

正答は④で、正答率は24%でした。④に該当する内容は本文2ページの「順応と『寛容さ』」という小見出しに続く段落にそのまま書かれています。③を選択している受験生が全体の29%でした。③の「道徳の基盤から宗教を切り離し」は本文の内容と逆であり、本文には「道徳の基盤を宗教から切り離し」と書かれています。内容合致問題で正答するためには、本文と照らし合わせながら各選択肢の文を細部まで検討し、本文と内容が合致しているか否かを判断することが必要です。

出典 南川高志『ローマ五賢帝』（講談社 1998年）

ローマ五賢帝の一人であるハドリアヌスの生涯と、その彼が実は同時代には憎まれていたことを論じた文章です。明解な文章なので、論旨を理解するのは難しくないでしょう。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は 20～26）

正答は次の通りです。

a 画 **b** 模範 **c** 責任 **d** 視察 **e** 実際 **f** かんば **g** 秘密

全問正答率は8%でした。「芳しい（かんばしい）」を正しく読めていない答案が多数ありました。基本的な語彙から出題しています。日頃から語彙を増やす努力をするとともに、設問の指示にあるとおり「読みやすいはっきりした楷書体」で漢字を書く練習をしておきましょう。

問2【空欄補充問題・前後の文脈から適切なものを選ぶ問題】（解答番号は 27・28）

空欄 **I** は、同じ段落にある「ギリシア文化華やかなりし頃」や「実に壮大な」がヒントです。正答は②です。正答率は50%でした。①は「すぐれた才能。また、それを持つ人。」（『日本国語大辞典』）の意味です。「すぐれている、りっぱな」を表す「偉」を理解したうえで、より聞き覚えのある①を選択した受験生もいたかもしれませんが、「神殿」の修飾語としては不適當です。

空欄 **II** は、すぐ後の「簡素な生活をともにして」がヒントです。正答は⑤です。正答率は49%でした。

問3【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 29）

4行前の「ギリシア文化華やかなりし頃」がヒントです。正答は③です。正答率は79%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 30）

傍線部 **B** と、傍線部 **B** を含む段落の内容を理解できれば、正答は⑥であるとわかります。正答率は73%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 31）

傍線部 **C** の2行前からの内容を理解できれば、正答は⑥であるとわかります。正答率は41%でした。②は「犯人を取り押さえることなく」が、⑤は「ハドリアヌスは……滞在先の屋敷で正気を失って」が誤りです。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 32）

「休むことを知らぬ」ほど旅を続けたという比喩的表現です。その具体的な行程は、傍線部 **D** を含む段落の直前2段落で説明されています。正答は④です。正答率は76%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 33）

ハドリアヌスと詩人フロリスとがやり取りしたと伝えられる詩の対応関係とあわせて、これがあくまでも「伝えられている」事実であって「このような詩のやりとりが実際になされたかどうかは怪しい」ことを読み取れていれば、正答は⑤であるとわかります。正答率は71%でした。

①は「詩を作って返したから」が誤りです。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は34）

傍線部Fの直前の「交易のルートは、この時代地中海世界を越えて紅海からインド洋にも及んだ」がヒントです。正答は①です。正答率は60%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は35）

傍線部Gの直前部分を理解できていれば正答は②であるとわかります。正答率は80%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は36）

「単純な解釈」とは「君主の白黒がはっきりした」解釈であり、具体的には傍線部Hの直前の段落で説明されています。正答は②です。正答率は60%でした。⑥は「ドミティアヌスとコンモドゥスにそれぞれ『不肖の息子』や『暴君』というレッテルを貼り」、および「彼らが暴政を行わなければローマは衰退しなかった」が誤りです。ギボンはそれぞれ、ドミティアヌスに「暴君」の、コンモドゥスに「不肖の息子」のレッテルを貼りました。くわえて、ドミティアヌスが「暴君」であったことがローマ衰退に影響したか否かをギボンがどのように解釈したかは本文に書かれていません。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は37）

傍線部Iの14行前からの内容を理解できていれば正答を導くことができます。正答は①です。正答率は69%でした。

問12【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は38）

本節では、ハドリアヌスが生涯をかけてローマ人の住む「世界」、すなわち彼が統治に責任を持つ「世界」を旅し続けたことを述べています。正答は③です。正答率は81%でした。

問13【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は39）

本節では、五賢帝の一人であるハドリアヌスが実は憎悪されていたという事実が論じられています。正答は④です。正答率は53%でした。筆者は、本節で指摘する事実「この時代がローマ帝国の最盛期であった理由を解き明かしてくれる秘密が隠されている」可能性を指摘してはいますが、本節が「ローマ帝国の最盛期であった理由」それ自体を説明している訳ではありません。よって、⑦は誤りです。

問14【内容合致問題】（解答番号は40）

正答は⑧です。正答率は27%でした。⑧は空欄 **乙** の節に記されています。全受験生の19%が選択した④は、「帝国内の西半分ではラテン語が、東半分ではギリシア語が公用語として通用していた」が誤りです。